



院長 仁木 啓介

平成19年7月28日、29日の2日間にわたり、全国被害者支援ネットワークの九州地区セミナーがおこなわれました。主催者である熊本犯罪被害者支援センターからの依頼を受け、当院から仁木啓介院長が出向き講演をおこないました。私はこれに同行させていただく機会を得ましたので、本講演の概要と所感を述べさせていただきます。

まず、本セミナーの概要と目的から説明します。本セミナーの対象は九州山口にある犯罪被害者支援センターの支援員およびボランティアの方々です。これらの方々には被害者に対して直接的支援に関する専門的知識と技術の習得を促すことが目的とされています。

その目的のもと、仁木院長は「トラウマの理解とその対応」と題し、犯罪被害や事故に遭われた方がどのような心理状態に陥るのかについて、①感情的な反応 ②対人関係の変化 ③一般的な精神疾患 ④ASD急性ストレス障害・PTSD(心的外傷後ストレス障害)が挙げられました。

これを心まなへ、こころの症状を呈している方への対応に重要な役割として安全の確保「症状は正常な反応である」という保証(自己コントロール感の回復)「自己努力の重視」(将来展望の提示)などの視点が示され、それぞれについて具体的な対応のあり方について説明がなされました。

また、犯罪や事故被害者の方々に直接対応をおこなう援助者が受ける「二次的外傷性ストレス」についても説明がなされました。これは、被害体験を聞いたり、それに対する具体的な対応をおこなったりすることで生じる援助者自身の強い情動が強いストレスになるというものです。これに対しては、同僚のサポートやセルフケアが重要であるという視点が示されました。

さらに、被害者遺族のケアの重要性についても触れられ、必要であれば専門的な介入が必要であること、EMDRが紹介され、EMDRの治療として効果的であるEMDRが紹介され、実際の症例がビデオで提示されました。

「同行させていただいた感想として、熱心にノートをとる様子が多く見られ、質疑応答も活発に意見や質問がなされた。参加者の意欲が非常に高かったことが印象として残りました。これは逆にこの領域の実践の難しさを物語っているのではないかと感じました。また、EMDRの実際の場面を提示するイメージアップが十分になされた。犯罪被害の現場は人のこころがむき出しにならざるを得ないシビアな場面が多く、本講演を聞きながら、心理臨床家としての実践が必要なのかという点について、改めて考えさせられる講演でした。

心のケア相談室 臨床心理士 佐竹圭介

ニキハーティーホスピタルという名称が次第に認知され、我々も漢字の名称からカタカナで講演依頼が舞い込んできているが、10月には大阪大学で解離についてのワークショップと研修会、一般口演の座長をさせて頂いた。様々な意味で私にとってこれからの将来の臨床家としてのスタイルを考える切っ掛けになったと思う。一方的に講演をするだけではなく、多方面の専門家の先生から意見や励ましを伺ったり、様々な交流により毎回多くの刺激と、元氣と同時に頂かせてもらっている。

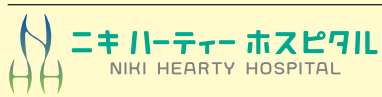
わさびの私は一人でも何か立ち向かい、孤軍奮闘していると勘違いしていた。今この診療ができていくのは、全国の同じ仲間を支えられ、サポートと多くの勇氣と元氣を与え続けてくれている様々な先生方のお陰でありとても感謝している。更なる私達のレベルの向上がニキハーティーホスピタルのレベルアップにも繋がるし、他の機関や分野を超えて繋がり、輪を広げていくことでユニークな病院作りができるものと信じている。

先日、今まで秋祭りとして執り行ってきた行事を、ニキハーティーホスピタルと称して執り行つた。ハーティーとパーティーをかけて、じゃれのようではあるが、其処にはユーモアのある暖かさも求めている。年々活動を感じる惟しであるが、今年、地域のボランティアの方々(峰熊会、肥後手まりの会)の協力を得て歌あり踊りありの華やかで、すばらしいパーティーであったと感じている。地域と密着した病院作りを目指す私達に、心強い味方を得ることができてボランティアの方々にはスタッフ一同、心から感謝している。上手にお礼を伝えることが出来ない患者様達も、その目が優しくほほえんでいるのが印象的で、それは喜びの目でニキキラと光り輝いた。

そよ風通信

初冬号

発行/ニキハーティーホスピタル
 院長/仁木啓介
 発行日/平成19年11月23日(第6号)



基本理念
 ニキハーティーホスピタルは、患者様の心を癒し、社会で安心して生活が出来るように手助けをします。患者様、ご家族、地域の方々に寄り添った、家庭的で心の通った医療とサービスを提供します。

全国被害者支援ネットワーク 第2回九州地区直接的支援セミナーに参加して



平成19年7月28日、29日の2日間にわたり、全国被害者支援ネットワークの九州地区セミナーがおこなわれました。主催者である熊本犯罪被害者支援センターからの依頼を受け、当院から仁木啓介院長が出向き講演をおこないました。私はこれに同行させていただく機会を得ましたので、本講演の概要と所感を述べさせていただきます。

まず、本セミナーの概要と目的から説明します。本セミナーの対象は九州山口にある犯罪被害者支援センターの支援員およびボランティアの方々です。これらの方々には被害者に対して直接的支援に関する専門的知識と技術の習得を促すことが目的とされています。

その目的のもと、仁木院長は「トラウマの理解とその対応」と題し、犯罪被害や事故に遭われた方がどのような心理状態に陥るのかについて、①感情的な反応 ②対人関係の変化 ③一般的な精神疾患 ④ASD急性ストレス障害・PTSD(心的外傷後ストレス障害)が挙げられました。

これを心まなへ、こころの症状を呈している方への対応に重要な役割として安全の確保「症状は正常な反応である」という保証(自己コントロール感の回復)「自己努力の重視」(将来展望の提示)などの視点が示され、それぞれについて具体的な対応のあり方について説明がなされました。

また、犯罪や事故被害者の方々に直接対応をおこなう援助者が受ける「二次的外傷性ストレス」についても説明がなされました。これは、被害体験を聞いたり、それに対する具体的な対応をおこなったりすることで生じる援助者自身の強い情動が強いストレスになるというものです。これに対しては、同僚のサポートやセルフケアが重要であるという視点が示されました。

さらに、被害者遺族のケアの重要性についても触れられ、必要であれば専門的な介入が必要であること、EMDRが紹介され、EMDRの治療として効果的であるEMDRが紹介され、実際の症例がビデオで提示されました。

「同行させていただいた感想として、熱心にノートをとる様子が多く見られ、質疑応答も活発に意見や質問がなされた。参加者の意欲が非常に高かったことが印象として残りました。これは逆にこの領域の実践の難しさを物語っているのではないかと感じました。また、EMDRの実際の場面を提示するイメージアップが十分になされた。犯罪被害の現場は人のこころがむき出しにならざるを得ないシビアな場面が多く、本講演を聞きながら、心理臨床家としての実践が必要なのかという点について、改めて考えさせられる講演でした。

心のケア相談室 臨床心理士 佐竹圭介

新栄養課長紹介



これまでの生活も早4ヶ月が経ち、ようやく職場の環境や雰囲気にも慣れてきた今日この頃です。栄養課長として一歩を踏み出しましたが、まだまだ戸惑いこの連続と奮闘の毎日です。患者様に喜ばれる食事の提供を第一に、その中で皆様方に食の楽しみや重要性をお伝えしていきたいと思っています。管理栄養士としての自覚と誇りを忘れず、自分自身キャリアアップに努めてまいりますので、ご声かけをお願いいたします。

管理栄養士 中島 史紗

エンジョイ芋掘り



OT作業療法室患者様と一緒にイモの収穫をしました。暑い夏に雑草とり、汗をかいての作業はこの日の収穫に一段と喜びを与えてくれました。自分たちの手で苗を植え、育て、収穫しそれを味わい、人にも喜んでもらえる。このすばらしい体験を通じて患者様と共に私たちスタッフも成長しています。

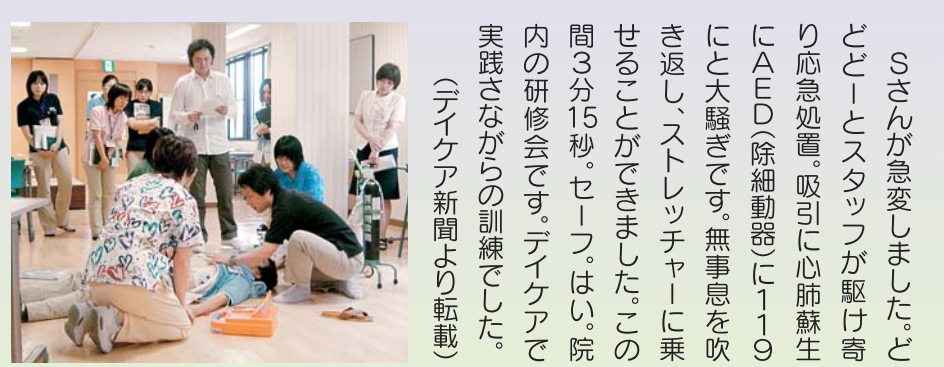
作業療法士 近藤 龍太郎

外来実績人数

2006.10月~2007.9月

	平成18年			平成19年						合計			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		7月	8月	9月
外来患者延数	964	935	877	809	812	889	835	866	852	806	708	831	10184
診療日数	25	24	25	23	23	26	24	24	26	25	27	23	295
1日平均人数	38.56	38.96	35.08	35.17	35.30	34.19	34.79	36.08	32.77	32.24	26.22	36.13	34.52
初診者数	31	30	30	32	35	40	30	32	28	37	41	27	393

救急研修会



Sさんが急変しました。どことスタッフが駆け寄り応急処置。吸引に心肺蘇生にAED(除動器)に119にと大騒ぎです。無事息を吹き返し、ストレッチャーに乗せることができました。この間3分15秒。セーフ。はい。院内の研修会です。デイクアで実践さながらの訓練でした。(デイクア新聞より転載)

外来診療のご案内

受付時間 8:30~11:30 / 13:00~16:30 ※初めの方は検査などもありますのでお早めにおこなってください。
 診療時間 9:00~12:00 / 13:00~17:00 ※不妊外来(要予約)・アレルギー外来(要予約)・アレルギー外来(要予約)
 休診日 土・日・祝祭日(水曜日は予約のみ) ※再来急患の場合は、この限りではありません

	月	火	水	木	金	土
午前	仁木 啓介 宮里 哲也 村上 良慈	岩淵 龍太 林 俊文	平村 英寿 ★	宮里 哲也 村上 良慈	岩淵 龍太 林 俊文	休 診 ★
午後	仁木 啓介 宮里 哲也 村上 良慈	岩淵 龍太 林 俊文	平村 英寿 ★	宮里 哲也 村上 良慈	岩淵 龍太 林 俊文	休 診 ★

★特殊外来 ☆予約診療

事務からのお知らせ

患者様とご家族の方へ、保険証の確認をお願いしています。
 ★[外来]……診療毎時
 ★[入院]……月1回
 来院されました際は、窓口での保険証の提示をお願いします。

編集後記

編集委員 田中 奈央子

前号の途中から「そよ風通信」制作に参加する事になりました。出来上がるまでの全てを体験するのは今号が初めてです。皆さん知ってました?? 広報誌が、病院スタッフの手作りで出来ているという事。私はてっきりどこかに頼んで作られたものばかり…驚きました。これからも「そよ風通信」を待っている方の為に、頑張って行こうと思います。見守ってくださいね。

広報委員 津崎事務長(委員長) 矢形(デイクア) 川上(業務課) 小川(外来) 高藤(栄養課) 秋成(デイクア) ミツ石(事務課) 田中(事務課)

ニキパーティー

2007.10.21(日)

本年の6月から「秋まつり委員」を中心に全スタッフの協力を得て、本年も3回目を開催することが出来ました。地域の方たちとの交流も徐々に深まり、今年は峰熊会会長 米倉様はじめ、肥後てまり楽座の皆様、紙飛行機のデモンストレーションをしていただいた石崎様に来院いただきで大盛況でした。名称も秋祭りから、「ニキパーティー」に変更しました。パーティー気分、お祭り気分をより一層高めて皆さんに喜んで楽しんでいただけるように今後も委員一同取り組んでいきます。

運営委員長 松尾ヘット

精神科・神経科・神経内科 医療法人仁木会
ニキハーティーホスピタル
 NIKI HEARTY HOSPITAL

〒862-0920 熊本市月出4丁目6-100
 TEL.096-384-3111 <http://www.niki-hp.or.jp>

